

## 離散数学 ⑥

徳久雅人

集合論  
(関数)

2012.5/21

## 離散数学の教育目標

- 記号論理 } 条件を書く  
推論する
- 集合論 データを書く, 計算する
- グラフ理論 データの構造を書く, 計算する

## (シラバス) 15週の計画

- 1~4週: 記号論理
- 5~9週: 集合論
- 10~14週: グラフ理論
- 15週: 補足

## (復習)

- $P((A \times A) \oplus B)$ を求めよ  
 $A = \{1, 2\}$   
 $B = \{(a, a) \mid a \in A\}$   
 $P(M)$ は集合 $M$ のベキ集合

## 答え

$$\begin{aligned} A \times A &= \{(1, 1), (1, 2), (2, 1), (2, 2)\} \\ B &= \{(1, 1), (2, 2)\} \\ (A \times A) \oplus B &= \{(1, 2), (2, 1)\} \\ P((A \times A) \oplus B) &= \{\{(1, 2), (2, 1)\}, \{(1, 2)\}, \{(2, 1)\}, \{\}\} \end{aligned}$$

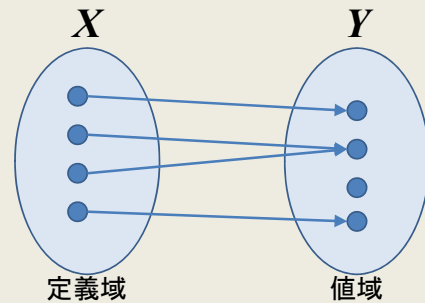
## 今日のゴール

- 関数とは
- 関数の記述
- 関数の性質
- 特別な関数

## 関数とは

- ある範囲のモノを, ある範囲のモノに対応付けること
  - 定義域: 対応元の範囲(集合)
  - 値域: 対応先の範囲(集合)
  - 定義域のいずれの要素も, それぞれ1つの対応先がある.

## 関数のイメージ



## 関数の記述

- ①  $f: X \rightarrow Y$
- ②  $X \xrightarrow{f} Y$
- ③  $f: a \mapsto b$
- ④  $b = f(a)$
- ⑤  $f$  は  $X$  から  $Y$  への関数である  
 $X$  は定義域,  $Y$  は値域,  $a$  は変数値,  $b$  は関数値

## 関数表

$$f = \begin{pmatrix} \text{山田} & \text{鈴木} & \text{小松} & \text{杉野} \\ \text{書記} & \text{会長} & \text{会計} & \text{書記} \end{pmatrix}$$
$$g = \begin{pmatrix} \text{会長} & \text{会計} & \text{書記} \\ 100 & 80 & 70 \end{pmatrix}$$

## 関数を使ってみる

$$f(\text{山田}) = \text{書記}$$
$$g(\text{書記}) = 70$$
$$g(f(\text{山田})) = g(\text{書記}) = 70$$

## 合成関数

$$g(f(\text{山田})) = g(\text{書記}) = 70$$
$$g \circ f(\text{山田}) = 70$$

## 関数の性質

- 単射  
 $\Leftrightarrow (f(a) = f(b)) \rightarrow (a = b)$   
 $\Leftrightarrow (a \neq b) \rightarrow (f(a) \neq f(b))$
- 全射  
 $\Leftrightarrow (\forall y \in Y)(\exists x \in X)(f(x) = y)$
- 全単射  
 $\Leftrightarrow$  全射 かつ 単射

## 資料の訂正

- 「変数値と関数値が1対1で対応していることを表す」  
– **全単射**のこと

## 単射？全射？全単射？

$y, x \in \mathbf{R}, s, t \in \mathbf{Z}$  において,

1.  $y = x$
2.  $y = x^2$
3.  $s = \text{round}(x)$   
...  $x$  を四捨五入
4.  $s = \text{prime}(t)$   
...  $t$  番目の素数

## 特別な関数

- 恒等関数  
 $f$  が恒等関数である  
 $\Leftrightarrow (\forall x \in X) f(x) = x$   
 $f = I_X$  と書く

## 特別な関数

- 逆関数  $f^{-1}$   
関数  $f: X \rightarrow Y$  が全単射ならば  
 $f \circ g = I_Y, g \circ f = I_X$   
となる関数  $g: Y \rightarrow X$  が  
ただ一つ存在し,  
 $g$  を  $f$  の逆関数という.

## (つづき)

- 逆も言える  
 $g$  が  $f$  の逆関数ならば  $f$  は全単射である.